

生物資源科学部だより

Vol.36

発行 2022年 6月

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6125

学部長より保護者の皆様へのご挨拶

生物資源科学部長 川向 誠



新型コロナウイルスの蔓延から2年を経て、島根大学でも少しずつ以前の教育活動に戻り始めました。昨年度末の3月の学位授与式や新年度の4月の入学式は、卒業生や入学生の参加の下、開催することができました。生物資源科学部におきましては、感染症対策と授業の両立を目指して、日々工夫を重ねながら、教育と研究活動を進めてきております。現在、生物資源科学部では、ほとんどの授業で対面での授業を取り入れております。特に実習、実験、フィールド学習、卒業研究を通じた教育活動は学生が成長する重要なカリキュラムですので、感染対策を取りながら対面授業を進めております。学生の成長にとっては大学内でお互いの交流ができる場が大事なことを再認識しています。

生物資源科学部は「生命科学科」「農林生産学科」「環境共生科学科」の3学科体制から4年を経て、昨年度末に初めての卒業生を送り出しました。今年度は、それぞれの学科が設定した教育目標を再点検する時期になっています。国連開発計画が定めたSDGs「持続可能な開発目標」が広く知られるようになってきましたが、これからは持続可能な発展を目指した社会を構築する必要があります。生物資源科学部はまさにこのSDGsを教育研究の柱にしている学部です。SDGsの重要性を理解した学生さんがたくさん社会に巣立っていくことを願っております。今後も、これまでに積み重ねた70年の教育実績を基盤として、広い視野を持った世界に活躍できる学生を育てていきたいと思っております。保護者の皆さまには、これからも暖かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

生物資源科学部に215名が入学

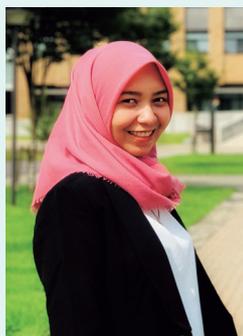
4月4日(月)、令和4年度島根大学入学式がくにびきメッセで挙行され、生物資源科学部に215名、大学院自然科学研究科(生物資源科学系)に58名の新生が入学しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来賓や保護者のご臨席を制限し内容を縮小した形となりましたが、3年ぶりに全入学生を出席者とした式典となりました。式では入学生代表の生物資源科学部農林生産学科加藤露羽さんが宣誓書を読み上げました。

入学式の後は、学科ごとに全員参加のオリエンテーションを実施しました。担当者から大学生活の基本的事項等について説明があり、新生はメモを取りながら熱心に話を聞いていました。



撮影：学生広報サポーター 奥村しょうた(生物資源科学部)

新任教員からの挨拶



ロサリア ナタリア セレキー 助教

農林生産学科
令和4年3月着任

私はインドネシア出身です。インドネシアではガジャマダ大学で農業経済を学びました。その後、2019年に山形大学大学院で修士号を取得し、2022年3月に岩手大学大学院連合農学研究科で博士号を取得しました。この5年半、日本で農業経営と農業経済に関する研究を行ってきました。私の研究テーマはインドネシアの農業における農場継承の決定要因分析です。現在、インドネシアが抱えている問題は日本と大きく変わらず、農家の高齢化は年々進んでおり、農場を継承する若者はあまりいません。そこで、私は日本における組織的な農業経営を参考に、インドネシア農業の課題を解決するための研究を行っています。私の研究に興味のある方はぜひご連絡ください！

学科の様子

生命科学科

生命科学科では、2、3年次に多くの実験・実習・セミナーを行い、卒業研究に必要な実験技術、調査能力、論理的な考え方を養います。実際に手を動かし体験することでしか得られない点は感染症拡大防止対策を徹底しながら対面式で行い、オンデマンド教材も効果的に併用するなど、教育的効果を高めるように工夫しています。昨年度に比べて対面授業の数も増え、学生同士の触れあう機会も増えることから、学生の修学意欲が向上することが期待されます。

1年生は、生命科学基礎セミナーIで各自が選んだ生命科学に関連するテーマについて、学生2~3名の少人数での指導を受け、発表に向けて取り組んでいます。2年生は、4つの専門的教育コースに所属され、専門性の高い授業・実験・実習の受講を通して興味を深めるとともに関連分野の知識も習得しています。3年生は、後期からの研究室配属に向けて、興味のある研究室の情報収集にも熱が入ります。4年生は、就職や大学院進学など将来の進路について考え、行動しながら、各教員の指導のもとに卒業研究を行っています。



1年生の生命科学基礎セミナーIの様子



2年生の基礎生物学実験の様子

農林生産学科

農林生産学科では、4月当初は感染対策のため授業の開始が繰り下げになり、4月14日からオンライン授業を中心とした授業が始まりました。4月21日からは、多くの授業が対面実施となり、キャンパスに活気が戻ってきました。感染対策を講じながら、大学生らしい生活が送れるように、教員一同工夫を凝らしています。

1年生は最初の1週間はオンライン授業に慣れることで精一杯だったかと思いますが、対面授業が開始され、演習林や農場での作業実習にも取り組んでいます。2年生は4つのコースに所属が決まり、いよいよ専門的な知識の習得と研究の準備を始めました。3年生は、卒業論文への取り組みと就職活動、進学のための対策などで忙しい日々です。森林学コースの3年生は島根大学三瓶演習林で野外実習を行いました。4年生は最終学年として他学年をリードしつつ、卒業研究や就職活動に取り組む日々です。コロナ禍でなかなか人と人とのつながりを作りにくい日々ですが、緩やかにつながりつつ大学生活を元気に送り、卒業してくれることを教員一同願っています。



森林学実習での毎木調査
(島根大学三瓶演習林:森林学コース3年生)

環境共生科学科

新入生はノートパソコンが必携となり、4月のオリエンテーションでは早速購入したパソコンを持参して、大学生活の心得について説明を受けました。コロナ禍にありながらも、何とか同級生が一堂に会して大学生活のスタートを切ることができ、その後も授業のグループワークなどを新しい友人たちと順調にこなしていています。2年生は4つの教育コースに分かれ、より専門性の高い講義や実験が始まりました。専門科目の壁にぶつかっている学生もいるようですが、対面授業も増えておおむね充実している様子です。3年生は研究室に所属し、教員の指導を受けて卒業研究に向けた実験や演習を開始しています。通常の授業とのやりくりには四苦八苦する学生もいますが、すでに本格的な調査や実験を行っている研究室もあり、3年生も活き活きとしています。4年生は卒業後の進路を選びながら、卒業研究の内容を深める段階に入りました。コロナ禍でも同じ研究室生活を送るということもあつてか、お互いに励ましあいながら切磋琢磨している光景が見られます。



新入生野外実習の様子
(5月28日、三瓶演習林で)

大学院への進学を薦めています ~大学院で学びを深めませんか~

生物資源科学部で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、さらに学問の深みを知り、学会発表や論文作成を通して、自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。大学院を修了した後はより専門的な職種に就くことができます。



↑
入試情報はこちら

後援会への入会をお待ちしています!

生物資源科学部後援会は、「生物資源科学部の強化発展を期し、その教育事業を後援することを目的」として、保護者の皆様が会員となり、学生の進学、就職支援ならびに学生生活充実のための様々な学生生活動への支援をいただいています。未入会の方は、是非入会いただきますようお願いいたします。

- 学部生 入会金及び会費 30,000円
- 3年次編入学生 入会金及び会費 15,000円